

学力向上に効果のある取組事例

杵築市立杵築小学校

⑰校内研修などによる授業改善

<「毎年の積み重ね」「日々の積み重ね」を大切にする授業改善の取組>

本校では、授業改善の取組を行うにあたり、

- ①前年までの「成果や課題」を全員で共通理解し、「子どもたちについてきていく力・伸ばすべき力」を明確にして、その年の取組をさらに重ねること
- ②学力の向上を促し、支える取組を「どの教室でも」日々積み重ねること

という2つの「積み重ね」を大切にして、校内研修に取り組んでいる。

「毎年の積み重ね」を大切にする取組

- ◆第1回の校内研修において、全員で「これまでの校内研究(授業改善)の歩み」と、「本年度の重点」が生み出された経緯を共通理解した。



本校の子どもたちの「ついてきた力」「育てるべき力」を知ること
毎年が「新しいスタート」ではなく、**取組の「積み重ね・スパイラル」が可能
になっている**

「日々の積み重ね」を大切にする取組

- ◆同じ方向性を持って日々取り組んでいくために、「杵築小学校の『どの教室でも』」を共通理解した。(第5回校内研修)

2023年度授業改善(校内研究)テーマ

子どもたちが意欲的に学び

「わかった・できた」が味わえる授業の創造

～学習実態をもとにした

「『見通し』を持たせる手立て」と「子どもの困りに対応する手立て」の工夫を通して～

<杵築小の『どの教室でも』>

- ①どの時間の授業にも「めあて」を示す (カードの使用による子どもたちへの「見える化」)
- ②子どもたちにとって「学びの地図」となる構造的な板書の実行
- ③基本的な学習過程
- ④子どもたちが、「友だちの考えや思いを理解しているか」を確認しながら授業を進めていく
- ⑤個に応じた授業を進めていく(「個人差」の解消に向けて)
「その子の実態をつかむ」→「ではこうしてみよう」 ※今年度の重点
- ⑥子どもたちの「やる気」を生む教師のポジティブワード

- ◆毎回の校内研修では、日々の取組の様子を語り合い、意見を交わし合う時間を持っている。それにより、各自が、自分の実践をふり返ったり、ヒントとなる見方や考え方を得たりすることで、質的な向上を図ることができている。



- ◆取組の検証やふり返りを通して、次に取り組むべきことを明らかにし、ポイント化して共通理解している。そのことにより、みんなが同じ意識と方向性を持って取り組むことができている。

<2023年度 2学期始め 共通理解事項資料>

どの子どもが「できた・わかった」の喜びを味わえる授業づくりと、定着への取組をさらにすすめる

<合い言葉>

自分でできた喜びを・自分もできた喜びを・どの子にも

①「学習実態の把握」と「個別の声」かけのための机間指導を継続しよう



子どもたちの何をみるのか

子どもたちの何でみるのか

「見取りの視点」を持とう



「この時間、子どもたちが、何ができたら(わかったら)よいのか=評価規準」とのつながり

②

「見通し」を持たせるとともに、既習内容の定着を図るために・・・



授業の導入部において、「既習事項のおさえ」や「学習のポイントのおさえ」をしよう(2学期重点的取組)

- ・前時の授業との関わり
- ・同じ領域の前単元との関わり
- ・前学年関連既習内容との関わり

<例えば、国語では・・・>

今回の物語文の読み方では、「場面の様子の変化と、それによって登場人物の気持ちはどう変わったかを **つなげて読む**」ということがポイントだよね。では、今日も、このポイントを大切に読んでいこうよ!!



③「定着」に向けての取組をすすめよう

○家庭学習を通じて

- ・課題の出し方の工夫
- ・家庭の協力を得る

○「朝の時間帯」8:25~8:35の活用 **New**

④

板書は、どの子どもが見てわかる「拠り所」・・・ (視覚支援)

「構造的な板書づくり」をすすめよう

授業の「流れ」を見せる・「ポイント」を見せる・「手がかり」を見せる・「考えと考えのつながり(共通・相違)」を見せる……